

## 創刊の辞

古代文学会は、今度、機関誌「古代文学」創刊号を、学界におけるに当り、本学会が、古代文学研究に關して、今後に意図するとこゝろを表明し、これを創刊の言とする。

本学会の生誕における基本的希求は、今日の学界に伏存する、学閥・学統、その他、人事關係に起因する、研究・発表に対する俗世間的障害のすべてを除くことによつて、學問研究における、もつとも純粹にして、眞摯・自由な研究を專一に推進せしめ得る場を生み出すことである。

本学会は、この目標の完遂のために、本会の構成員は、すべて、現に、古代文学研究者として、もつとも活発に、新鮮・重厚な研究を発表し、推進している研究者を、學閥・学統・学色・学歴のいかんにかかわらず、その研究成果、研究態度を主眼として構成し、學問・研究の純粹な進展を期するものである。このため、本学会は、それぞれ種々の學風・学色による研究者の研究成果の発表及びそれに対する討論・検討を主眼とする月例研究発表会に第一の重点を置き、これを本学会伸展の母体とする。なお、それらの學問上の成果を広く学界に示現するための機関誌の發刊に、併せて重点を置く。

本学会の最大の念願は、われわれの企図する學問研究・発表の純粹性の獲得と、そのための學問的情熱とが、今日の、古代文学研究の世界を、なお一層、眞の學問研究の場として復活せしめるための推進核となることである。

古代文学会

## 目次

日本書紀成立における民族的傾斜の一影

賀古明 1

古代歌謡の一考察……………戸谷高明 9

——「ぬばたまの夜はいでなむ」——

### 郵送による討論

前野貞男 青木生子

古代文学研究 太田善磨 伊原昭

における今日 尾崎暢映 谷馨

の焦点と欠点 鴻巣隼雄

16

人麿歌集の筆録者……………森淳司 19

——助詞「丹」の表記を中心として——

人麻呂歌集における用字の一特性

阿蘇瑞枝 28

「山吹の花」雑感……………町方 和夫 34

伝誦の作家たち……………中西進 38

会則……………8

会報・会員消息